**言語学　レポート**

**情17-0000　あいうえお**

**指導教員　かきくけこ**

**１. ニックネームについて**

**メタファーやメトニミーに基づくニックネームには、どのようなものがあるか、いくつか具体例を挙げ論じよ。**

**メタファー：**ラピュタ(関西大学総合情報学部)

関大の他のキャンパス(千里山や高槻ミューズ、梅田など)とは違い、交通の便が非常に悪く、JR高槻やJR富田から、バスで30分もかけないと、学校に行けない山奥にあるため、スタジオジブリの映画「天空の城ラピュタ」に登場する、空に浮かぶ伝説の城「ラピュタ」に類似しているということで、そう呼ばれている。つまり、メタファーに基づくニックネームである。

**メトニミー：**うらなり(夏目漱石「坊っちゃん」の登場人物)

うらなりは坊っちゃんにでてくる英語教師で、とても顔色が悪いが痩せておらず、ふくれていた。過去に清が「うらなりの唐茄子ばかり食べるから、蒼くふくれる。」と言ったため、主人公の中で、蒼くふくれている人とうらなりが強く関連付けられたため、そう呼ばれている。つまり、メトニミーに基づくニックネームである。

**２．「ている」と進行形**

**日本語の「ている」と英語の進行形の類似点、相違点について、例文を作成し、説明せよ。**

**a. John is studying math now. (している最中)**

**b. John and Mary are always arguing. (繰り返し行われる動作)**

**c. The plane is arriving in ten minutes. (間違いなく行う予定)**

**d. He is dying. (その状態になりつつある)**

**e. 太郎は今勉強している。(している最中)**

**f. この人は死んでいる。(状態)**

**g. 漱石はこんなことを言っている。 (記録)**

**h. さとみは何度もアメリカに行っている。(記録)**

i. Ken’s studying at library for now. (一時的な習慣)

f. かんたは夏目漱石の本をすべて読んでいる。 (経験)

日本語の「ている」と英語の進行形の類似点として、どちらも時間軸で考えたときに、点ではなく、ある一定の長さを持った線で表されるような表現であることが言える。しかし、日本語の「ている」では、過去の経験を表すことができたり、英語の進行形では、未来の予定を表すことができる点が異なっている。

**3．直示表現について**

**次の四つの文が解釈できるのはそれぞれどのような状況の場合か。「あそこ」「ここ」と「来る」「行く」の直示表現としての意味を明示した上で、それぞれ具体的な状況をあげて説明せよ。**

**a. あそこに行ってください。**

「あそこ」はア系列の指示語であるため、話してからも、聞き手からも遠い場所を指し、

「行く」は話し手とは違う場所に接近する移動を表すため、話し手が聞き手を、両者から遠い場所へ移動するよう命令している状況であると解釈できる。

**b. あそこに来てください。**

「あそこ」はア系列の指示語であるため、話してからも、聞き手からも遠い場所を指し、「来る」は話し手の場所へ接近する移動を表すため、話し手が両者から遠い場所へ移動した上で、聞き手をその場所へ移動するよう命令している状況であると解釈できる。

**c. ここに行ってください。**

「ここ」はコ系列の指示語であるため、話し手に近い場所を指し、「行く」は話し手とは違う場所に接近する移動を表すため、共通の地図などを両者が見ている状態で話し手が聞き手をある場所へ移動するよう命令している状況であると解釈できる。

**d. ここに来てください。**

「ここ」はコ系列の指示語であるため、話し手に近い場所を指し、「来る」は話し手の場所へ接近する移動を表すため、話し手の場所へ聞き手を移動するよう命令している状況であると解釈できる。

**出典**

「坊っちゃん」夏目漱石

「言語学」第十回授業　ハンドアウト